

症例演習Ⅲ

科目責任者 入澤篤志
学年・学期 4学年・後期

I. 前文

症例演習Ⅲでは、担当講座に関連する国家試験の臨床問題について、主訴や現病歴、検査結果などをどのように解釈し、そして問題解決につなげるかといったことに主眼を置き、臨床推論の観点からの講義・演習を行います。講義計画表に記載されている国家試験も問題番号を中心に予習してくることをお勧めします。

また、今回の症例演習Ⅲにおいては、一部で基礎医学と臨床医学の統合型講義の形態を導入し、臨床問題解決における基礎医学の重要性についても理解を求めます。本年度は、消化器疾患、血液疾患、皮膚疾患の3つの病態について、関連する基礎医学分野の講義と臨床症例問題演習を組み合わせた講義を行うこととしています。なお、本年度の統合型講義の具体的な内容は、消化器疾患については「ウイルス性肝炎」、血液疾患については「骨髄増殖性腫瘍」、皮膚疾患については「皮膚感染症」ですので、予習としてはこれらの病態・疾患について勉強してくることを推奨します。

本講義は、これから始まる臨床実習や6年生の学習にも極めて有用であると考えます。

II. 担当科（教授）

内科学（消化器）	（入澤篤志）
内科学（血液・腫瘍）	（三谷絹子）
皮膚科学	（井川健）
第一外科学	（小嶋一幸）
第二外科学	（窪田敬一）
救急医学	（小野一之）
埼玉医療センター 消化器内科	（玉野正也）
微生物学	（増田道明）
病理診断学	（石田和之） （小端哲二）
熱帯病寄生虫病学	（新任教授）
分子細胞生物学	（白瀧博通）
解剖学（マクロ）	（徳田信子）

III. 一般学習目標

- （1）重要な疾患を持つ患者さんの問題点を分析し、解決する能力を得る。
- （2）臨床実習前に症例演習をする事により、臨床実習の効果を高める。
- （3）思考能力を高め、6年生での国家試験を視野に入れた学習にスムーズに適応する。

IV. 学修の到達目標

- （1）各コマで与えられた症例について、問題点、病態生理、診断、治療などを理解する。
- （2）臨床実習に応用出来るように、理解の幅を広げる。
- （3）一時的な知識の獲得ではなく、6年生までこれらの能力を保持出来るようにする。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	9	30	水	2	109-E-47, 112-A-33	内科学(消化器) 富永圭一
2		30	水	3	112-A-56, 113-F-65, 113-F68	医療情報センター 中村哲也
3		30	水	4	113-A-42, 113-D-70, 113-D-29, 113-B-30	埼玉・消化器内科 玉野正也
4		30	水	5	112-D-62, 110-A-30	内科学(消化器) 有阪高洋
5		30	水	6	108-I-65, 111-I-60	内科学(消化器) 飯島誠
6	10	1	木	1	110-B-44 (改変), 腫瘍免疫	小嶋英史
7		1	木	2	109-I-56, 111-I-63	内科学(血液・腫瘍) 瀬尾幸子
8		1	木	3	112-D-37, 炎症性腸疾患の基礎	解剖学(マクロ) 徳田信子
9		1	木	4	112-A-68, 112-A-70	内科学(消化器) 眞島雄一
10		1	木	6	103-C-28, 103-D-52, 104-B-42, 104-I-72, 105-D32	皮膚科学 井川健
11		2	金	1	統合型講義Ⅰ. 血液・腫瘍内科関連	分子細胞生物学 東覚
12		2	金	2	統合型講義Ⅰ. 血液・腫瘍内科関連	内科学(血液・腫瘍) 佐々木光
13		2	金	3	統合型講義Ⅰ. 血液・腫瘍内科関連	内科学(血液・腫瘍) 佐々木光
14		2	金	4	111-I-63, 113-A-20	内科学(血液・腫瘍) 中村由香
15		2	金	5	108-A-58, 112-D-64, 112-D-70	内科学(血液・腫瘍) 市川幹
16		2	金	6	105-D-44, 107-D-38, 113-F-62	内科学(血液・腫瘍) 半田智幸
17		5	月	1	統合型講義Ⅱ. 皮膚科関連	熱帯病寄生虫病学 川合覚
18		5	月	2	統合型講義Ⅱ. 皮膚科関連	微生物学 増田道明
19		5	月	3	統合型講義Ⅱ. 皮膚科関連	皮膚科学 井川健
20		5	月	4	統合型講義Ⅲ. ウイルス感染症	微生物学 増田道明
21		5	月	5	統合型講義Ⅲ. 肝疾患の病理診断	病理診断学 石田和之
22		5	月	6	統合型講義Ⅲ. 症例演習: 112-A-50, 112-B-34, 112-F-58	内科学(消化器) 飯島誠
23		6	火	1	112-C-57, 112-C-58, 112-C-59	第一外科学 井原啓佑
24		6	火	2	112-D-60, 113-B-34, 113-D-28	第一外科学 中川正敏
25		6	火	3	112-C-53, 112-D-25, 113-D-70, 113-D-43	第二外科学 磯幸博
26		6	火	4	112-C-19, 112-C-39, 112-D-6, 112-F-60	第二外科学 磯幸博
27		6	火	5	110-B-50, 110-B-51, 110-B-52, 110-H-29, 112-F-63	救急医学 小野一之

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
28	10	6	火	6	107-G-63, 107-G-64, 107-G-65, 113-A-22	救 急 医 学 小 野 一 之
29		7	水	2	111-C-13, 112-E-18, 112-E-40	救 急 医 学 根 本 真 人
30		7	水	3	110-B-56, 111-E-60, 111-E-61, 112-C-17	救 急 医 学 根 本 真 人
31		7	水	4	109-A-45, 112-F-72, 112-A-55,	熱帯病寄生虫病学 桐 木 雅 史
32		7	水	5	消化器系腫瘍の病理	病 理 診 断 学 石 田 和 之
33		7	水	6	109-E-53, 111-G-57, 113-A-33	内科学 (消化器) 渡 邊 菜穂美
34		7	水	7	110-B-19, 112-A-51, 112-D-27	救 急 医 学 和 氣 晃 司
35		8	木	1	110-G-56, 112-A-73, 113-A-53	内科学 (消化器) 入 澤 篤 志
36		8	木	2	103-D-26, 113-C-54, 113-C-55, 113-C-56, 112-F-54	内科学 (消化器) 入 澤 篤 志
37		8	木	3	108-D-27, 108-D-49, 111-I-79	内科学 (消化器) 土 田 幸 平
38		8	木	4	112-A-55, 112-D-84, 113-D-38, 113-A-44	内科学 (消化器) 郷 田 憲 一
39		8	木	5	107-I-45, 109-B-45, 110-G-58	皮 膚 科 学 濱 崎 洋 一 郎
40		8	木	6	111-B-49, 112-C-44, 113-A41	皮 膚 科 学 濱 崎 洋 一 郎

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

試験を行い、評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- (1) 今までに各科で指定した教科書および推薦図書。
- (2) Question Bank, Approach, 105, 106, 107回医師国家試験問題解説書。

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

フィードバックとして試験問題の解答に関する解説を行います。
質問事項に対しては随時対応します。

X. 求められる事前学習，事後学習

教科書等を用いて，各授業内容のシラバスに記載された国家試験問題に関する事前学習は推奨される。
本年度から基礎と臨床の統合型講義が開始されるため（3つのテーマ），「ウイルス性肝炎」「骨髄増殖性疾患」「感染性皮膚疾患」については概略を学ぶこと。
予習時間としては各講義毎に30分ほどで良いと考える。

XI. コアカリ記号・番号

A-2-1), A-2-2), C-2, C-3, C-4, D-1, D-3, D-7, E-2, E-3, E-4, E-5, E-6, E-8, E-9, F-1, F-2, F-3-1), F-3-4), F-3-5)